

1. 授業のねらい・概要

経済の中で行われる生産、消費、貯蓄、投資および貿易を通じて、労働、土地、資本、エネルギーなどの資源がどのような財やサービスに配分されるかという問題を資源配分問題というが、ミクロ経済学は、資源配分のメカニズムとその問題、および処方すべき政策を考察する学問である。資源配分の機能を果たす代表的なシステムは市場機構であるが、そこで重要な役割を果たすのは価格である。このため、ミクロ経済学は、市場における、価格による資源配分を分析するものであり、価格理論と呼ばれたこともある。

ミクロ経済学の標準的な内容は、市場の参加者である家計(あるいは消費者)と企業意思決定の分析からはじめて、需要や供給の性格を明らかにし、完全競争、独占、独占的競争および寡占などのさまざまな市場形態の均衡の特徴を分析するというものである。その理論内容は、規制政策や競争促進政策などに深く関わる。

本講義では、基礎理論を平易に解説し、現実の経済へのアプローチを示すことを通じて、受講生が、理論の基本構造を正確にとらえ、経済学的な考え方に習熟することを目指す。

2. 授業の進め方

授業計画にしたがって、講義形式で行う。テキストは用いないが、講義資料を配付し、必要に応じて参考文献の関連箇所を指示する。また、現実の経済問題を適宜取り上げ、考察を試みる。

3. 授業計画

1. 講義概要の紹介、ミクロ経済学とは？	9. 完全競争市場均衡の効率性
2. 需要と供給	10. 不完全競争市場の理論(1)：独占
3. 消費者行動と需要曲線 (1)：効用と無差別曲線	11. 不完全競争市場の理論(2)：独占的競争、寡占
4. 消費者行動と需要曲線 (2)：予算制約、最適消費	12. ゲームの理論
5. 企業行動と供給曲線	13. 不確実性下での行動
6. 完全競争市場と長期均衡	14. 市場の失敗 (1)：公共財、外部性
7. 生産要素市場と所得分配	15. 市場の失敗 (2)：費用逓減産業
8. 厚生経済学の基礎	

4. 到達目標

ミクロ経済学の基本概念や考え方を文章により説明できること。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

授業項目に関連する内容について参考図書を読むこと(30分程度)

6. 成績評価の方法・基準

受講状況および学期末試験の結果を合わせて評価する。

7. テキスト・参考文献

テキストは特に指定しない。資料を配付しテキストの代わりとすることがある。

(参考文献)

伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社 2003 年

神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社 2014 年

その他の参考文献は、適宜講義時間中に紹介する。

8. 受講上の留意事項

経済学基礎を履修していることが望ましい。

出席回数が一定以上に達しない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意すること。